

# 結核予防婦人会と連携したDOTSの試み



沖縄県福祉保健部健康増進課長  
(前沖縄県中部保健所長)  
伊礼 壬紀夫

## 1. はじめに

効果的な結核対策を推進するため、DOTSの重要性が指摘されています。改正された結核予防法にもDOTSの考え方が導入され、限られた人的物的資源の中で、DOTSを効果的に展開し拡大していくことが求められています。そのためには、DOTSを実施できる体制の整備が重要となります。早期の退院が可能となりつつある現状で、地域におけるDOTS実施体制の整備が急務となっています。

私が昨年まで勤務していた沖縄県中部保健所では、結核予防婦人会と連携したDOTSを開始しました。本稿では、その経緯や活動について紹介したいと思います。

## 2. DOTS導入までの経緯

沖縄県中部保健所では、地域DOTSに向けて、業務の整理を通して人と時間を確保し、協力者の確保に努めて体制を整備してきました。全結核患者へのDOTS実施を目指していたこともあり、年間約100件の新登録患者数に対してスタッフだけでDOTSを実施するには限界がありました。

検討の末、所外協力者として、結核予防週間などで保健所と一緒に地域の結核対策、予防活動を行ってきた実績と長い歴史を持つ結核予防婦人会にお願いくことにしました。まず、結核予防会沖縄県支部、沖縄県結核予防婦人連絡協議会へDOTS事業の説明を行い、その後、中部地区婦人連合会、沖縄市婦人連合会と学習会や話し合いを重ねました。そして、結核予防婦人会会員の中から協力者を募り、保健師との同伴訪問あるいは保健所と連絡を取っての婦人会員だけの訪問を行うことにしました。

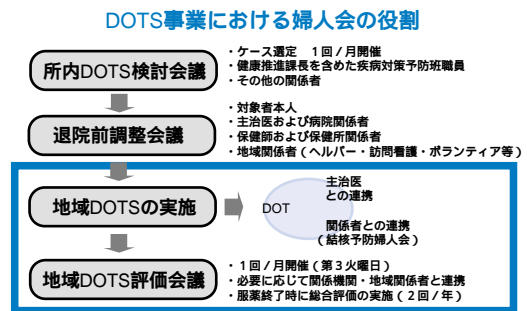
## 3. 沖縄県中部保健所と結核予防婦人会が連携したDOTS

写真は、2003年7月に開催された県の結核研修会における、保健所職員と沖縄市結核予防婦人会員によるDOTS劇の上演風景です。



DOTS劇

図は沖縄県中部保健所におけるDOTS事業の流れですが、婦人会は青線で囲んだ部分に協力して頂いております。最初の頃、会員の皆さんは「訪問で感染するのでは」といった不安が強かったようですが、とりあえず、沖縄市結核予防婦人会員数人による訪問と服薬確認への協力が始まりました。



地域DOTSの実施にあたっては、患者さんの家に伺って薬がきちんと飲まれているか患者さんに確認し、薬の空きシートの入ったビニールを数え、残っている薬がないかチェックします。そして、確認後は、薬の空きシートを保健所に届けてもらっています。訪問した結核予防婦人会員や保健師の報告によると、DOTSは単なる服薬確認にとどまらず、患者さんの話を聞くことが患者さんの大きな支えにもなっていることが伺えます。

写真は、保健師が沖縄市結核予防婦人会員(向かって左)と初めてDOTS訪問をした時のものです。この日から、沖縄市内の82才男性の患者さんに対する沖縄市結核予防婦人会の訪問が始まりました。



最初の婦人会訪問

次の写真は、DOTS訪問最後の日に、訪問した結核予防婦人会員3人と患者さんで、治療終了のお疲れ様会と激励会を行った時のものです。この患者さんは、5カ月間の入院後に訪問DOTS4カ月、計9カ月間の服薬治療を終了しました。2005年12月までに、計8人の中部地区結核予防婦人会員の方々が、5例の結核患者さんのDOTSに協力して下さいました（2006年1月現在、全例治療完了）。



DOTS終了後激励会

その後も、年に数回、地区結核予防婦人会の会合等でDOTSに関する勉強会を続けるとともに、婦人会員の皆さんは活動について県内や九州地区の結核関連研修会で発表し、好評を博しております。

さらに、DOTSに協力して下さいった婦人会員の方には、地域DOTS評価会議にも参加して頂いております。

#### 4. DOTSに協力して下さいった結核予防婦人会員の声

「地域に結核患者さんなんて本当にいるの？と聞いていましたが実際に訪問してびっくりしました。患者さんから、入院中の話を聞いて、若い人もいる事を聞いて、まだまだ結核の患者さんはいるんだなーと実感しました。服薬の声かけのために訪問してみても、患者さんが薬を飲み続けながら、だんだん元気になっていくのを見て、最後まで飲み終わって元気な姿を見ることができました。こんな小さな協力が、役に立ってもらえるのだから私達は協力していきたいと思っています。いつでも、みんなに呼びかけて行きたいと思います。」

「これまで結核の勉強会を自分の地域でやるためにビデオ上映をしましたが、実際に訪問するまで実感がなかったです。患者さんは、元気そうに見えるのに、たくさんの薬を飲まないといけなのは、本当に大変だなーと思いました。昨年DOTS劇に参加

して、結核の治療や耐性菌の事を学ぶことができたのですが、DOTS訪問でも、いい勉強になりました。訪問では患者さんのほうからいろいろな話を下さり、最初緊張していましたが、終わる頃には服薬確認だけでなく、楽しく時間をすごす事ができました。いやーほんと楽しかったですよ。」

「これまで私たち結核予防婦人会は複十字シール募金への協力、結核予防週間での啓発活動に携わってきました。また、結核研修会やDOTS劇を通して結核について学んできました。結核についてはよく知っているつもりでしたが、今回の中部保健所とのDOTS訪問を通して実際の結核患者さんにふれ、まだまだ、結核は大きな問題であると実感しています。なぜ大きな問題かといいますと、地域にまだ、たくさんの患者さんがいらっしゃるという事実、しかも目の前におられ、たくさんの薬を、それも1日に何十錠という量の薬を服用されておられました。退院時は非常にやせて大丈夫かと心配するほどでしたが、薬を飲み終わる頃にはずいぶん元気になられ、治療をすれば確実に治り人にうつす心配もない病気であることもわかり、きちんと治療することがどんなに重要かを学ぶことができました。」

「結核予防婦人会が訪問することを患者さんが受け入れて下さり、喜んでくださったことは大きな励みにもなり今後、新たな活動としてDOTS訪問に協力していきたいと考えています。」

#### 5. おわりに

効果的な地域DOTSを実施するにはまだまだ多くの課題があり、実施にあたっては、種々の制約の中で工夫を重ねていく必要があります。保健所が地域DOTSの中心になると思いますが、現代は、専門家のみが対策を進めるだけでは十分な成果に結びつかない時代になりました。人や組織など地域が持っている力を組み合わせることで、住民の幸せにつながる活動が展開できます。それは、DOTSにも当てはまることだと思います。

最後に、DOTSに協力して下さいった結核予防婦人会員の声を紹介して、本稿を終えたいと思います。

「地域から結核をなくしていくために皆さんもDOTS支援者としての活動を始められることを呼びかけたいと思います。」



中部地区結核予防婦人会の各支部会長